

第2章 長期ビジョン編 (2060年頃の目指すべき将来像)

1 時代の潮流 (世界～日本～徳島)

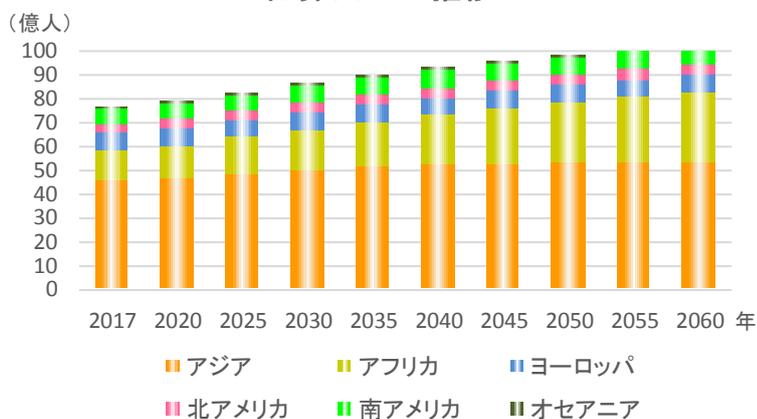
(1) 人口移動・人材獲得競争時代の到来

世界人口は2060年に100億人を突破する一方、高齢化が進行

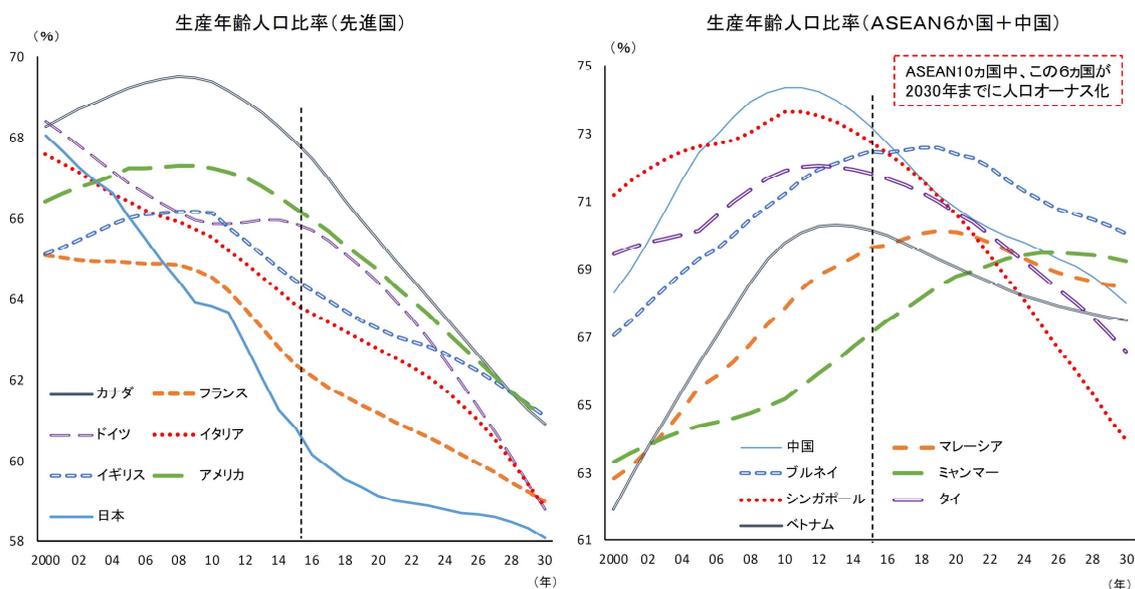
世界の人口は、アジア・アフリカを中心に爆発的に増加し、2017年の約75.5億人から、2030年に約85.5億人、2055年には100億人を突破し、2060年には102.2億人にまで達すると予測されています。

一方で、日本をはじめ、欧米先進国や中国では、既に生産年齢人口（15～64歳）比率の低下が継続する状態「人口オーナス期」に入っており、2030年までには、ASEAN（東南アジア諸国連合）の多くの国々でも同様にオーナス期入りすると見込まれ、経済のグローバル化・ボーダレス化が一層進む中、世界的な人材獲得競争の激化が予想されています。

世界人口の推移



世界各国の人口オーナス期入り



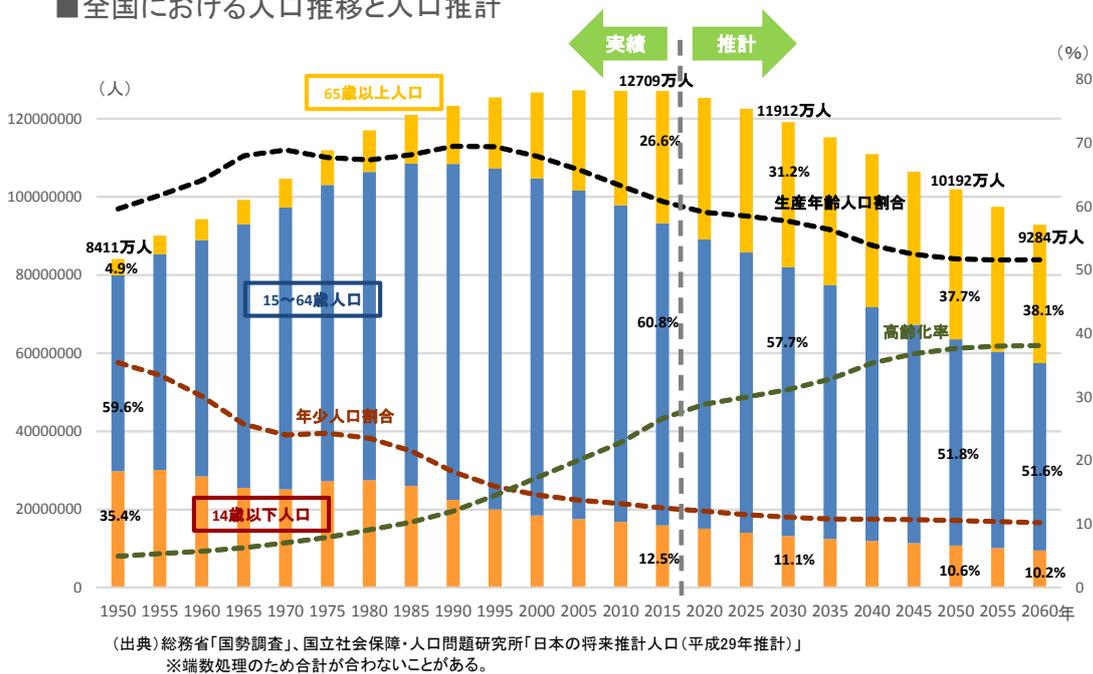
我が国人口は1億人を割り込み、生産年齢人口はさらに減少

我が国は、世界に例を見ない速さで人口減少と高齢化が進み、人口は2015年の約1億2千7百万人から、2030年に約1億1千9百万人、2053年には約9千9百万人と1億人を割り込み、2060年には、約9千2百万人にまで減少すると予測されています。

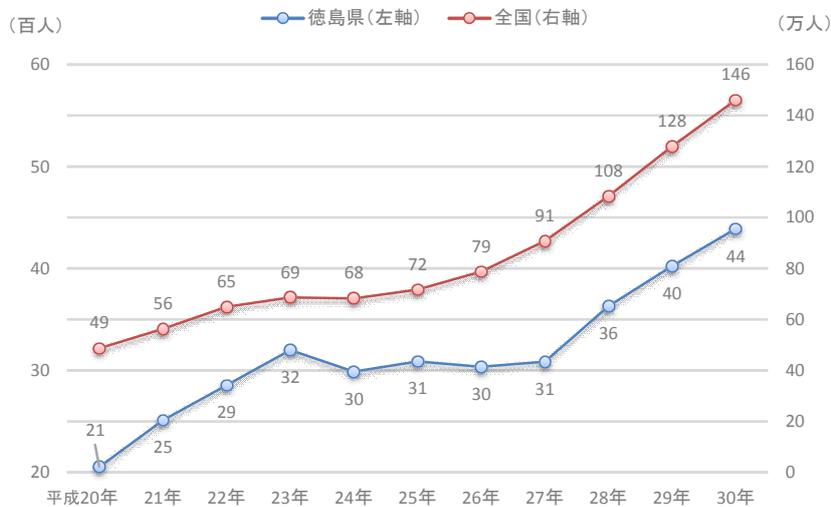
年少人口（0～14歳）と生産年齢人口（15～64歳）は減少の一途をたどり、老年人口（65歳以上）は、第二次ベビーブーム世代が老年人口に入った後の2042年に約3千9百万人でピークを迎え、その後は一貫して減少に転じ、2050年に約3千8百万人（37.7%）、2060年には約3千5百万人（38.1%）と、全人口の約4割が65歳以上となる見込みです。

一方、国内の外国人労働者は徐々に増加してきており、2008年に約49万人であったものが、2018年には約146万人と、10年間で約3倍の増加となっています。国においては、今後ますます深刻化する人手不足に対応するため、外国人材の受入れ拡大に向けた取組みが進められています。

■全国における人口推移と人口推計



外国人労働者数の推移(全国・徳島県)



(出典) 厚生労働省『「外国人雇用状況」の届出状況まとめ(各年10月末現在)』

エイジレス、ダイバーシティ社会「とくしま」の実現へ

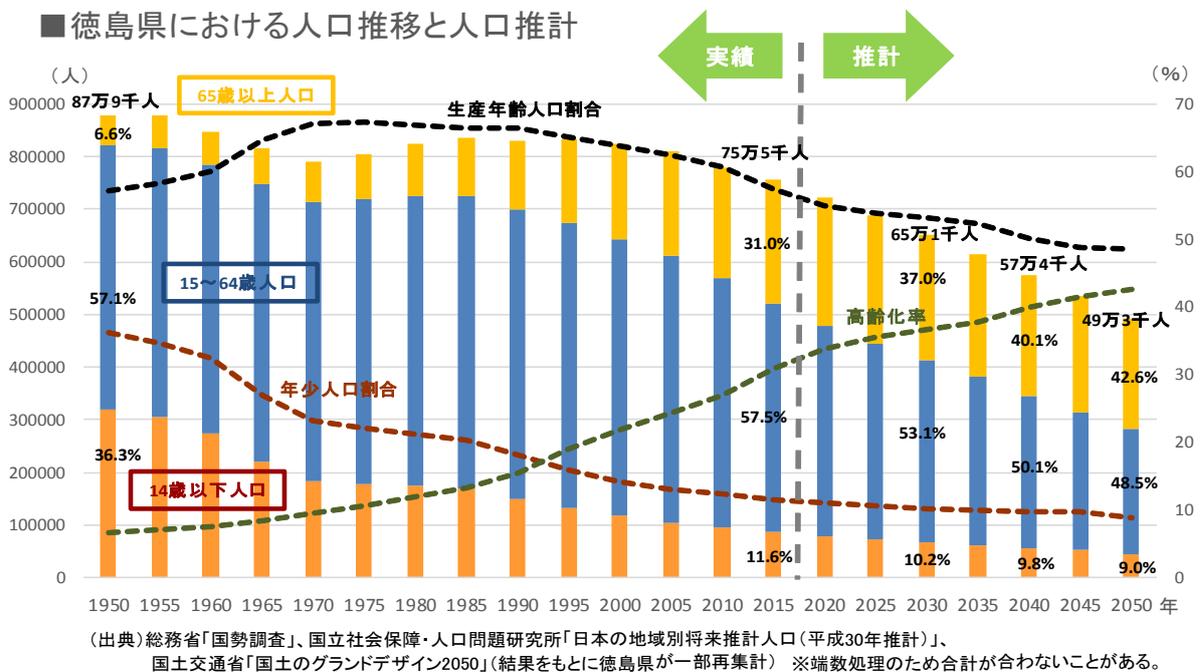
本県では、全国を上回る速度で人口減少・高齢化が進み、2015年の約76万人が、2030年に約65万人、2045年には約54万人にまで減少すると予測されており、2050年には50万人を割り込むとの試算（493千人：「国土のグランドデザイン2050」）もあります。

年少人口（0～14歳）は減少が続き、2015年の約9万人（11.6%）が、2030年には約7万人（10.2%）、2045年には約5万人（9.8%）となる見込みです。

生産年齢人口（15～64歳）も同様に減少を続け、2015年の約43万人（57.5%）が、2030年には約35万人（53.1%）、2045年には約26万人（48.8%）にまで減少します。

老年人口（65歳以上）は、2015年の約23万人（31.0%）が、2030年に約24万人（36.7%）、2045年には約22万人（41.5%）となる見込みです。

人口減少、少子高齢化、労働力不足といった課題を抱える一方、さらなる平均寿命の延伸も予測されています。「人生100年時代」を見据え、すべての世代の人々が意欲・能力を活かして活躍することができる「エイジレス社会」、また、性別、国籍、障がいの有無などに関わらず、誰もがいきいきと暮らすことができる「ダイバーシティ社会」の実現が求められています。



(2) 地球環境問題の深刻化と高まる自然災害リスク

地球環境問題の深刻化、世界に広がる「脱炭素社会」へのシフト

人類に生活の利便性や豊かさをもたらした世界規模での工業化の進展は、一方で、エネルギー消費の増大による地球温暖化や資源の枯渇、生物多様性の減少といった深刻な地球環境問題を引き起こしています。

とりわけ、地球温暖化に伴う気候変動の影響により、豪雨や猛暑などの異常気象の頻発といった自然災害リスクの増大が差し迫った課題として憂慮されているほか、世界的な人口増加や新興国の経済成長などと相まって、水不足や食料不足なども懸念されています。また、海面上昇による居住地域の減少や、熱中症・感染症の増加などの影響が生じつつあり、温室効果ガスの削減は、人類共通の喫緊の課題となっています。

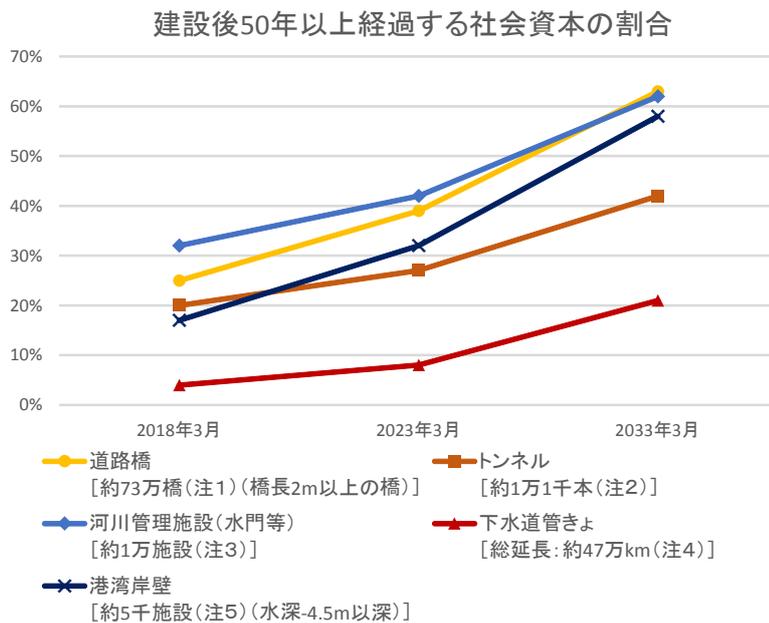
2015年12月に採択されたパリ協定は、国際的な気候変動への対応として、『世界全体の平均気温の上昇を産業革命以前に比べて2℃より十分低く保つとともに、1.5℃に抑える努力を追求すること』として、世界の多くの国々が「脱炭素社会」の実現に向けた取組みを加速させています。

高まる自然災害リスクと確実に迫り来る巨大地震

近年、異常気象や大きな自然災害が頻発している我が国でも、今世紀末頃には、20世紀末頃と比べて年平均気温が2.5～3.5℃上昇し、短時間に降る大雨が増加するといった予測（気象庁「異常気象レポート2014」〈平成27年3月20日公表〉）もあり、今後、自然災害の危険性が更に高まることが危惧されます。

また、今後30年以内に、首都直下地震（M7クラス）が70%程度（中央防災会議「首都直下地震対策検討WG最終報告」〈平成25年12月19日公表〉）、南海トラフ地震（M8～9クラス）が70～80%程度（地震調査研究推進本部「活断層及び海溝型地震の長期評価」〈平成31年2月26日公表〉）の確率で発生するとの予測が公表されており、巨大地震発生への社会的な備えが急務となっています。

特に、高度成長期以降に整備された道路橋、トンネル、河川、下水道、港湾などの社会インフラについては、今後、建設後50年以上経過する施設の割合が加速度的に高まっていくと想定されています。地球温暖化防止につながる自然エネルギーの最大限の導入や森林吸収源対策とともに、大規模自然災害に耐えうる強靱な国づくりが喫緊の課題となっています。



注) 1 道路橋約73万橋のうち、建設年度不明橋梁の約23万橋については、割合の算出にあたり除いている。(2017年度集計)
 2 トンネル約1万1千本のうち、建設年度不明トンネルの約400本については、割合の算出にあたり除いている。(2017年度集計)
 3 国管理の施設のみ。建設年度が不明な約1,000施設を含む。(50年以内に整備された施設については概ね記録が存在していることから、建設年度が不明な施設は約50年以上経過した施設として整理している。)(2017年度集計)
 4 建設年度が不明な約2万kmを含む。(30年以内に布設された管きよについては、概ね記録が存在していることから、建設年度が不明な施設は約30年以上経過した施設として整理し、記録が確認できる経過年数毎の整備延長割合により不明な施設の整備延長を按分し、計上している。)(2017年度集計)
 5 建設年度不明岸壁の約100施設については、割合の算出にあたり除いている。(2017年度集計)

(出典)国土交通省「国土交通白書2018」

徳島ならではの気候変動対策と地震災害への備えを加速へ

本県では、南海トラフ地震はもとより、近年、大型化する台風や線状降水帯により頻発化・激甚化する豪雨災害、複数の自然現象が同時又は連続して発生する「複合災害」などに対して、「事前復興」の考え方を基本に、事前防災・減災対策の強化や速やかな復旧・復興に向けた取組みを推進しています。

また、気候変動対策に寄与する「脱炭素社会の実現」を掲げた条例を全国で初めて制定するなど、温室効果ガスの排出を抑制する「緩和策」と、既に現れている影響や中長期的に避けられない影響に対して、被害を回避・軽減する「適応策」を両輪とした取組みを展開しており、さらに強化していく必要があります。

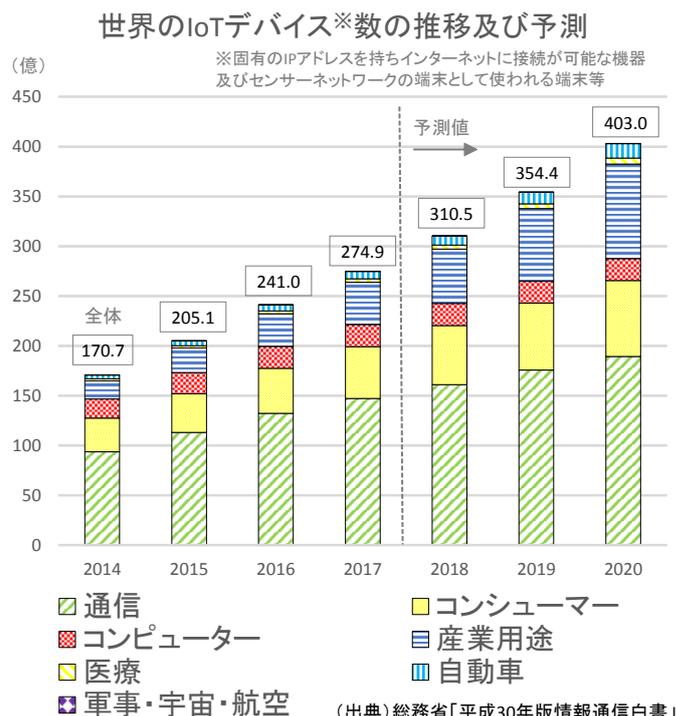
さらに、南海トラフ地震の発生確率が高まる中、東日本大震災をはじめ、過去の地震災害の教訓を踏まえた、「死者ゼロ」を目指す取組みを一層加速させ、「致命的な被害を負わない強さ」と「速やかに回復するしなやかさ」を備えた「県土の強靱化」を実現することが求められています。

(3) 加速する「Society5.0」の実装

「第4次産業革命」がもたらす大変革

現在、世界の国々では、ICT機器の爆発的な普及とともに、IoT、ビッグデータ、AI、ロボットなどの革新技術がけん引する「第4次産業革命」が急激な進展を見せており、様々な製品、サービスの開発や社会実装が次々と進み、生活のあり方に大きな変化をもたらしています。

5G（第5世代移動通信システム）サービスも開始され、革新技術によるイノベーションは、今後さらに進展すると考えられており、生産や販売、消費といった経済活動に加え、健康や医療、公共サービス、さらには人々の働き方などを根底から変えていくとともに、国連の「持続可能な開発目標（Sustainable Development Goals : SDGs）」に代表される人類共通の課題解決や世界全体の持続的発展に寄与することが期待されています。



経済発展と社会的課題の解決を両立する「Society5.0」の実現

我が国は、急速に進む人口減少・少子高齢化や地球環境・エネルギー問題への対応など、様々な社会の課題に直面する「課題先進国」ですが、優れた技術力や研究開発力、潜在能力の高い人材層などの強みを合わせ持っています。

革新技術を生み出し、社会実装を進めることにより、労働力不足の解消や生産性の向上を図り、経済成長や健康長寿社会の形成につなげるなど、世界を先導する変革モデルを実現できる大きな可能性を有しています。

こうした背景のもと、革新技術をあらゆる産業や社会生活に取り入れ、経済発展と同時に、様々な社会的課題の解決を図り、誰もが快適で活力に満ちた質の高い生活を享受できる未来社会「Society 5.0」の実現を目指すこととしています。今後、我が国の潜在成長率を大幅に引き上げ、国民所得や国際競争力の向上に大きく寄与すると考えられています。

「超スマート社会・とくしま」の具現化へ

本県では、全国に先行して人口減少、高齢化・過疎化が進む一方、全国屈指の光ブロードバンド環境を活かした情報通信関連産業や人材の育成・集積が図られるなど、革新技術の社会実装フィールドとして適した環境にあります。

本格的な5G時代の到来を見据え、産業、防災、福祉をはじめ行政に至るまで、社会のあらゆる分野において、IoT、ビッグデータ、AI、ロボットなど革新技術の社会実装を加速させ、地域が直面する諸課題を解決する、徳島ならではの「超スマート社会」を具現化する取り組みを展開し、我が国が目指す「Society 5.0」の実現をリードしていくことが期待されます。

(4) 加速するグローバル化・ボーダレス化

経済活動の自由化の加速、ボーダレス化の拡大

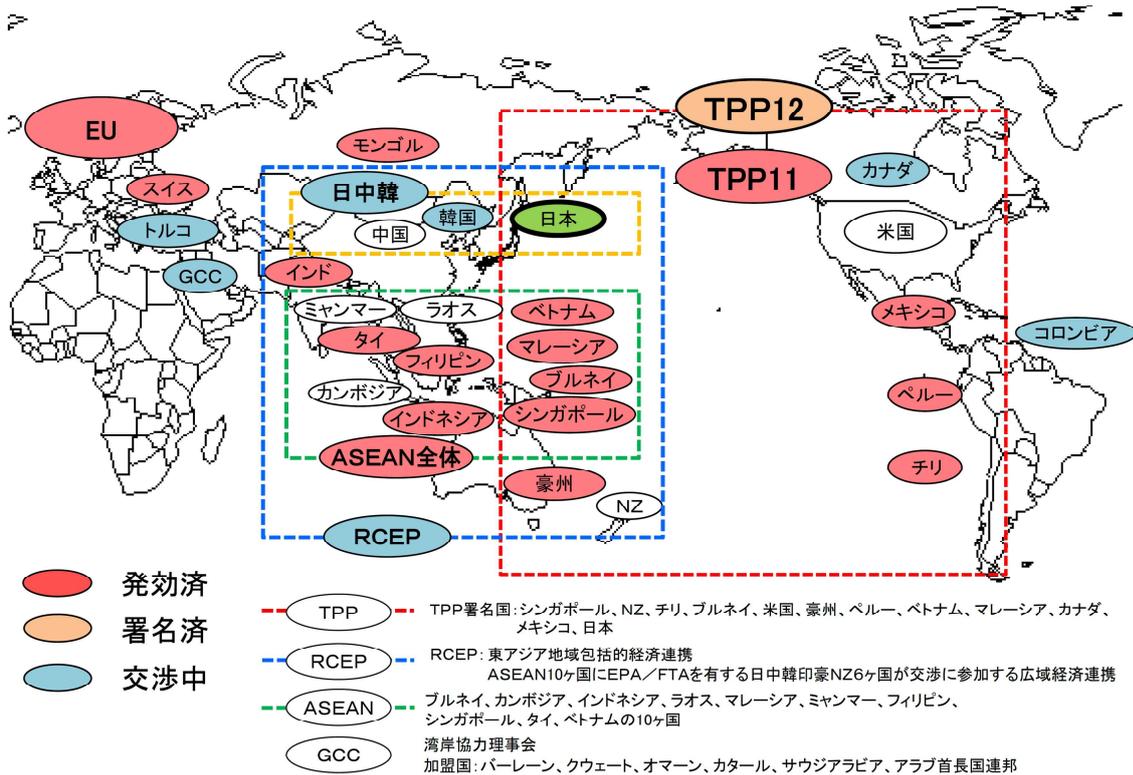
世界規模での経済的な相互依存の深まりや、近年のICTの劇的な進歩などにより、ヒト・モノ・カネ・情報の流動性が一層高まるとともに、グローバル化・ボーダレス化の流れが一段と加速しており、あらゆる面において、国家・都市間の競争が激化しています。

国際的な自由貿易の流れが広がり、二国間・多国間でのFTA（自由貿易協定）、EPA（経済連携協定）などの地域貿易協定によって、経済連携を図る動きが活発化しています。

また、インターネット利用者の拡大や電子決済手段の多様化が世界的に進む中、インターネットを介し国境を越えて商品・サービスを売買する電子商取引（EC）が急速に拡大しており、世界の越境EC利用者数は、2020年には9億人を超え、市場規模は約1兆ドルにまで拡大する見込みです。

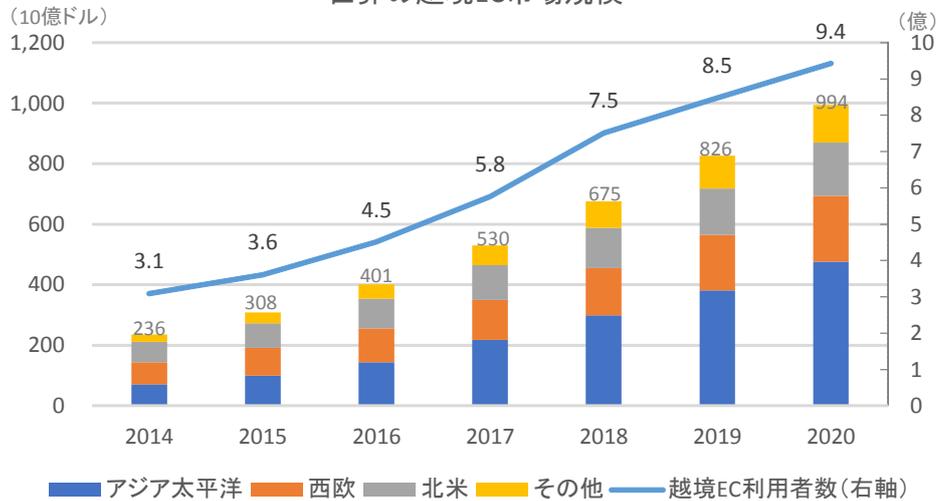
さらに、ECの拡大を支えるITプラットフォームを提供する企業が存在感を増しており、インターネットを介したシェアリングサービスの展開、膨大なビッグデータを活用した自動運転技術の開発やヘルスケア産業への進出といった既存の事業モデルを覆す新しいビジネスモデルを誕生させるなど、ボーダレスな経済活動は今後ますます広がると見込まれます。

我が国の経済連携交渉の状況



(出典) 農林水産省資料「経済連携交渉の状況について(平成31年4月)」

世界の越境EC市場規模



(出典) 経済産業省「通商白書 2018」

TPP11等の巨大経済圏の形成、「インバウンド新時代」の到来

我が国では、人口減少による国内市場の縮小が見込まれる中、自由貿易の拡大や経済連携の推進を通商政策の柱に据え、成長著しいアジア地域、カナダ、メキシコ、オーストラリアなど、11カ国間でモノ、サービス、投資等の自由化を定めるTPP11や、EU28カ国との経済連携協定となる日EU・EPAなど、地球規模での経済圏を拡大し、経済成長を促していくこととしています。

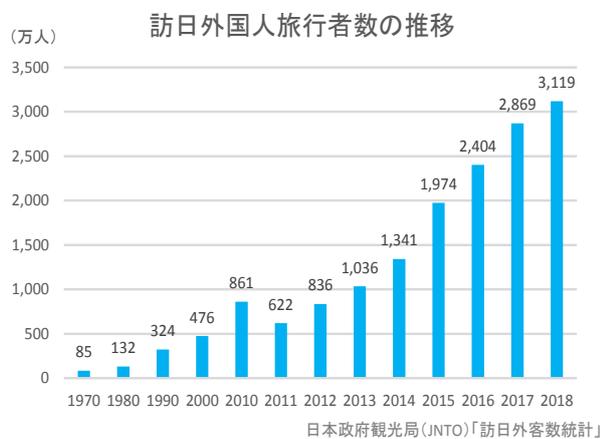
また、インバウンド誘客を成長戦略や地方創生の柱と位置づけ、「東京2020オリンピック・パラ

リンピック」が開催される『2020年・4千万人』、さらに『2030年・6千万人』との目標を掲げ、観光を我が国の基幹産業へと成長させる取組みを加速させています。

世界の成長力を取り込み、徳島経済の飛躍へ

グローバル化・ボーダレス化の進展に伴い、世界規模で競争が激化する中、本県では、県内産業の競争力強化や、海外での販路拡大、インバウンド誘客を積極的に進めるとともに、国際的な視野を持ち様々な分野で活躍する若者をはじめ、本県の未来を担う人材育成に取り組んでいます。

今後、世界的なEC市場のさらなる拡大や、電子決済の普及によるキャッシュレス社会の進展を見据えた取組みを推進するとともに、東京2020大会や2025年大阪・関西万博を契機として、一層の増加が期待されるインバウンド誘客に向け、本県の自然・歴史・文化・食などの魅力あふれる観光資源を活用したコンテンツに磨きをかけ、世界の成長力を取り込み、本県のさらなる経済飛躍につなげていくことが求められています。



(5)「東京2020オリンピック・パラリンピック」レガシーの創造

社会の進歩に向けたスポーツの持つ重要な価値

世界各国のスポーツのあるべき指針、ユネスコ「体育・身体活動・スポーツに関する国際憲章」において、「体育・身体活動・スポーツ」の実践は、すべての人の基本的権利とし、スポーツは教育や健康増進だけでなく、困難に直面した人に生きがいを与え、社会的連携を強化し、自然災害からの復興や国際社会の平和構築に大きな役割を果たすものとされています。

特に、オリンピック・パラリンピック競技大会は、開催国の人々や社会に様々な有形無形の“良い影響(レガシー)”をもたらしてきた歴史があり、近年はオリンピックムーブメントの一環としてレガシーが重視されるようになっていきます。

国際社会においては、社会・経済の発展はもとより、SDGsの達成にもつながるものとして、オリンピックをはじめ、スポーツが持つ価値への関心が高まっています。

世界中から注目が集まる「日本」

我が国では、ラグビーワールドカップ2019を皮切りに、夏期五輪として56年ぶりの日本開催となる東京2020大会、ワールドマスターズゲームズ2021関西と、3年連続で国際スポーツ大会が開催されることとなっており、世界中から大きな注目を集めています。

国際スポーツ大会の開催を契機として、国や世代を超えたスポーツ交流を活発にし、“スポーツ

立国・日本”を実現するとともに、文化の祭典でもある東京 2020 大会においては、日本の多様な文化・伝統などの価値を“ジャパンプランド”として世界に発信することにより、外国人旅行者を呼び込むなど、地方創生につなげていくこととしています。

徳島ならではの文化・スポーツレガシーの創造へ

世界最大の“スポーツ・文化の祭典”である東京 2020 大会では、公式エンブレムの「組市松紋」に「ジャパンプルー・藍色」が採用され、県民が“あわ文化”の魅力を再認識する機会になるとともに、東京 2020 大会などの事前キャンプの県内実施や、ワールドマスターズゲームズ 2021 関西の競技種目の本県開催により、県民がスポーツに取り組む気運が高まっています。

こうした大会で得られるノウハウや人脈、大会にあわせて機能を拡充したスポーツ施設を最大限活用し、国内外からのスポーツ大会の誘致、トップアスリートの輩出、県民誰もが気軽にスポーツに親しめる環境づくりにつなげていくとともに、本県が誇る“あわ文化 4 大モチーフ”である「阿波藍」「阿波人形浄瑠璃」「阿波おどり」「ベートーヴェン・第九」に一層磨きをかけ、国内外に強力に発信するなど、徳島ならではの文化・スポーツレガシーを創造していくことが求められています。

(6) 世界が共有「持続可能な社会」の実現

「持続可能な開発目標（SDGs）」の推進

2015 年 9 月の国連総会で、先進国と開発途上国が共に取り組むべき国際社会全体の普遍的な目標「持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」が全会一致で採択されました。2030 年までの「持続可能な開発目標（SDGs）」として、17 のゴール（目標）と 169 のターゲットが掲げられ、「誰一人取り残さない（leave no one behind）」社会の実現を目指し、国連に加盟するすべての国が、あらゆる形態の貧困や飢餓の撲滅、質の高い教育の確保、気候変動やその影響の軽減などに取り組むこととしています。

日本の「SDGs」の確立

我が国においては、国を挙げて SDGs を推進する司令塔として、内閣総理大臣を本部長とした「SDGs 推進本部」が設置され、「持続可能で強靱、そして誰一人取り残さない、経済、社会、環境の統合的向上が実現された未来への先駆者を目指す」ことをビジョンとして、「あらゆる人々の活躍の推進」や「省・再生可能エネルギー、気候変動対策、循環型社会」など、特に注力すべき 8 つの優先課題を中心に、SDGs 達成のための幅広い取組みを進めています。

「SDGs」の理念を具現化する「徳島モデル」を全国・世界へ

本県では、地球規模の喫緊の課題である環境問題に対し、「緩和策」と「適応策」を両輪とする気候変動対策への取組みや、脱炭素社会の実現に向けた水素エネルギーや自然エネルギーの積極的な利用、また、環境、人、社会、地域などに配慮した「エシカル消費」の推進など、持続可能な社会を構築するため、SDGs の理念にも通じる各種の取組みを全国に先んじて進めています。

その取組みは、まさに地方創生の実現にも資するものであり、経済、社会、環境の調和する持続可能な社会を実現するため、一層加速させていくことが求められています。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための17の目標



2 将来ビジョン（2060年頃の姿）

（1）未知なる社会へ挑戦「かがやく とくしま」

一人ひとりが夢や希望を持ち、その実現に向かって、
誰もが輝くことのできる徳島

【人生100年時代、元気な高齢者が地域で活躍するエイジレス社会が実現している】

- ・最先端の医療サービスや健康経営・予防の取組みにより、健康寿命は大きく伸び、豊かな自然や食に恵まれ、保健・医療・介護をはじめとする暮らしのサポートが充実した徳島では、多くの県民が年を重ねながら住み慣れた地域で元気に暮らし、人生を楽しむことのできる「人生100年時代」を迎えています。
- ・県民誰もが、年齢に関わりなく、培ってきた知識や経験、技能を活かし、仕事や社会活動などを通じて、地域でいつまでも活躍し続けられる「エイジレス（生涯現役）社会」が実現しています。

【子どもたちの笑顔が地域にあふれ、未来を切り拓くたくましい若者が育まれている】

- ・「子どもは宝」という意識が社会全体に浸透し、若い世代が希望をもって働くことができ、安心して結婚、妊娠、出産、子育てができる社会経済環境が実現しています。
- ・ICTの飛躍的な進展により、テレワークなどの柔軟で多様な働き方が一層広まり、ライフスタイルに応じた子育て環境の選択が可能になるとともに、多彩な幼児教育・保育サービスの提供や、経験豊富な高齢者による育児支援といった地域ぐるみで支える子育て環境が充実しています。
- ・学校、家庭及び地域の連携や特色ある教育により、生きる力を支える学力や多様な価値観を身に付け、郷土への理解や愛着を深めた多くの若者が、「ふるさと徳島」への誇りを抱き、社会へ巣立っています。
- ・IoTやAIの活用により、どこに住んでいても多様な学習の機会や学びの環境が整えられ、障がいのある子どもも障がいのない子どもも、希望する場所で習熟度に応じたきめ細やかな教育を受けながら、個性や能力を最大限に伸ばしています。
- ・英語教育や留学、異文化体験を通じた人材の育成や、産業界・地域と連携したキャリア教育が、VR（バーチャルリアリティ）による体験学習なども活用しながら、子どもの発達段階に応じて体系的に行われ、幅広い視野や勤労観・職業観を身に付けた、未来を創造するたくましい若者が世界を舞台に活躍しています。

【誰もが健康的で質の高い生活を送ることのできる社会が実現している】

- ・幼少期からの食育や「地産地消」の推進により、バランスのとれた食生活や、適度な運動や健康づくりを楽しむ習慣が浸透し、生涯健康を保ち、生活の質（QOL）の高い暮らしが実現しています。
- ・医師の「地域偏在」や「診療科偏在」が解消し、広域救急医療体制が更に充実するとともに、遠隔医療システムや機能補助スーツ・ロボットによるサポート、医療・福祉・介護の包括的な連携・充実が図られ、県民誰もが住み慣れた場所で安心して暮らせる地域社会が実現しています。

- ・ V Rや歩行支援ロボット、コミュニケーション支援技術の進展により、障がいのある人もない人も、若者から高齢者まですべての人がともに様々なスポーツやレジャーを楽しんでいます。
- ・ 産学官の連携や県民意識の醸成など県を挙げた取組みにより、世界的な課題であった糖尿病を克服するとともに、世界レベルの研究開発臨床拠点として国内外から製薬企業や研究開発機関が集積し、IoTやAIを活用した高度な医療研究が進められ、研究成果をもとに幅広い分野で新たな医療・サービスが生み出されるなど、世界の健康長寿にも貢献しています。

【誰もがいきいきと暮らし、学び、働き、活躍することのできる“ダイバーシティ徳島”が創り出されている】

- ・ 年齢や性別、国籍、障がいの有無等に関わらず、すべての人が安心して暮らし、自立しながら支え合い、個性や能力を発揮して自己実現できる「ダイバーシティ徳島」が実現しています。
- ・ 性別に関わらず、様々な分野での活躍やキャリアアップが可能となり、また、育児や介護に携わることが当たり前になるなど、男女が互いに尊重し合いながら社会の中で充実した人生を送っています。
- ・ 誰もがライフステージや年齢に関わらず、人生をより充実させるための学び直し「リカレント教育」を受けることができ、柔軟な職場復帰や転職などができる労働環境が整っています。
- ・ ICTの飛躍的な進展により、テレワークをはじめとする多様な働き方が一層進化し、ワーク・ライフ・バランスが図られ、長時間労働や過労死が根絶され、働く時間や場所に縛られず、いつでも、どこでも働くことのできる環境が整い、一人ひとりが“働き方を選ぶ”社会が実現しています。

【人と人、人と地域のつながりの和が広がっている】

- ・ 「共助・共生」の意識が浸透し、福祉や教育、環境保全、まちづくりなど、生活を取り巻くあらゆる領域で、住民やNPO、企業をはじめとする多様な主体による活動が地域を支えています。
- ・ 地域のキーパーソンが中心となり、代々受け継いできた地域資源をベースに多様な人材や異文化との連携により、地域活性化や環境活動などの社会的課題の解決を図るソーシャルビジネスなどが活発に取り組まれています。
- ・ 行政サービスと地域の共助活動が融合し、住民サービスが、住民主体のシェアリングエコノミーとして提供されるなど、「新たな公共私」の協力関係が構築されています。
- ・ 阿波おどりや人形浄瑠璃などの伝統文化や県人会活動などを通じて、全国に暮らす徳島と関わりを持つ人々との「新たなつながり」が生まれ、徳島の「ファン」が広がり、「人の絆」の力で地域課題の解決が図られ、持続可能で魅力ある地域社会が形成されています。

(2) 未知なる課題を超越「しなやか とくしま」

いかなる困難もしなやかに乗り越え

強靱で、経済や環境とも調和した持続可能な社会・徳島

【自然災害に強いまち・地域・人づくりが進んでいる】

- ・あらゆる災害から県民の生命、財産、経済活動を守り、また速やかな復旧・復興につなげるため、「事前復興」の考え方を基本に、ハード・ソフト両面から県土の強靱化が図られています。
- ・公共施設や民間建築物の耐震化をはじめ、避難施設や緊急輸送道路の整備、集中豪雨や大型化する台風の襲来に備えた治水・土砂災害対策などの事前防災・減災対策が進むとともに、IoTやAI等を活用したインフラの戦略的・効率的な維持管理がなされ、災害に強くしなやかな県土が広がっています。
- ・県内全域において、自助・共助・公助の連携や、自主防災組織による取組みが活発に行われるなど、地域ぐるみの防災力が向上しています。
- ・幼少期からの防災教育等により、県民一人ひとりに防災意識が定着し、地域防災リーダーを中心に事前復興計画の策定や主体的な避難行動につながる防災訓練が行われるなど、自然の脅威から命を守る地域の絆が結ばれています。

【安全・安心な暮らしと豊かな自然が息づいている】

- ・本県が取り組んできた「ライフステージに応じた消費者教育」やSDGsを見据えたエシカル消費の普及、高齢者や障がい者等の消費者被害防止のための「見守りネットワークの構築」などの取組みが全国のスタンダードとなり、「徳島スタイル」の消費社会が定着しています。
- ・安全・安心な農産物などの県産食品の供給や、幼少期からの食育、地産地消の浸透、食品の表示適正化などの取組みにより、安全で安心な食生活や豊かな食文化が継承されています。
- ・地域住民と警察・行政等が一体となった交通安全運動や防犯活動の広まりにより、交通事故が減少し、特殊詐欺やDV、ストーカー、薬物乱用といった日常生活を脅かす犯罪等が根絶された社会が実現しています。
- ・適切な污水处理などにより清潔で快適な生活環境が確保され、豊かな水辺空間を求めて子どもから高齢者まで多くの人々が訪れ、楽しんでいます。
- ・ブナ林などの貴重な自然林が大切に守られるとともに、生態系バランスの崩壊や農林水産業被害を招く野生鳥獣の適正管理が的確に行われ、本県の恵み豊かで魅力ある自然が将来世代に引き継がれています。
- ・農山漁村や中山間地域では、自然環境と調和した美しい景観を活かした地域づくりが定着するとともに、伝統的な農林水産業の文化的価値が世界的に認められた「にし阿波の傾斜地農耕システム」をはじめ、徳島ならではの豊かな自然と潤いのあるふるさとの風景が新たな価値を生み出しています。

【環境・経済・社会の調和する持続可能な社会が創り出されている】

- ・県民一人ひとりから社会全体にいたるまで、自然との共生や資源の有限性、地球規模の環境問題など、社会的課題への意識がさらに高まり、環境にやさしいライフスタイルや社会経済システムが選択され、環境・経済・社会の調和する持続可能な社会が創出されています。
- ・エコカーなどの環境に配慮した製品・サービスの購入や、プラスチックごみや食品ロスの削減、モノの所有から必要なときに必要な量だけ利用する「共有（シェア）」への意識転換など、持続可能なライフスタイルが広がっています。
- ・「電気」、「燃料電池（FC）」利用のモビリティシステムが普及するなど、環境にやさしいヒトやモノの移動スタイルが確立しています。

- ・自然エネルギーが主力電源となり、県内各地において、まちづくりや景観と調和した太陽光発電をはじめ、小水力発電、豊富な森林資源を活用した木質バイオマス発電やその熱利用が広まり、地域分散型のエネルギーシステムが確立され、「エネルギーの地産地消」が実現しています。
- ・公有林化が進んだ森林は、間伐や広葉樹林化により多様な生物が生息する豊かな森へと生まれ変わり、水資源の確保や土砂災害の防止、カーボン・オフセットを活用した温暖化対策の推進など、県民生活に様々な恩恵をもたらしています。
- ・地球温暖化による気候変動に対しても、農産物の品種改良や企業のビジネスモデルの転換などの「適応策」が社会経済システムの中に浸透し、強靱でしなやかな県民生活が確立されています。

【すべてのヒト・モノ・地域がつながる“超スマート社会”が実現し、誰もが豊かな暮らしを享受できる社会が実現している】

- ・IoT、ビッグデータ、AI、ロボットなどの革新技術が県民生活のあらゆる場面に実装され、すべてのヒト・モノ・地域がつながり、様々な知識や情報が共有され、県民誰もが必要な時に、必要な情報・モノ・サービスを受けることができる「超スマート社会」が実現しています。
- ・産業活動において生産性の向上や新たなサービス・付加価値が生み出されるとともに、くらしの面では、時間・場所に縛られない多様な働き方・学び方や、AIやロボットによる子育て・介護サービスなどが実現し、地域においては、自動運転によるモビリティサービスや現金を必要としないキャッシュレス社会が実現するなど、革新技術によってあらゆる分野に“変革”がもたらされ、県民誰もが豊かな暮らしを享受しています。

【革新技術が幅広くあらゆる産業に取り入れられ、生産性の向上や新たな付加価値を生み出している】

- ・あらゆる産業に革新技術が取り入れられ、これまで分散していた情報やテクノロジーの融合が生まれ、資源・エネルギー使用の効率化や労働力不足への対応などの社会的課題の解決や、新たな価値の創造につながっています。
- ・ものづくり分野では、AI、ロボットによる生産管理の自動化・効率化が進むとともに、消費者ニーズをリアルタイムできめ細かくとらえ、個々のニーズに応じた製品・サービスを提供する新たなビジネスモデルが構築されています。
- ・農林水産業では、栽培管理等に革新技術の活用が進むことで、生産性が飛躍的に高まり、高い付加価値を生み出す成長産業へと進化を遂げています。
- ・道路、河川、上下水道、学校などの社会インフラの維持管理においては、ドローンやIoTによる状況把握、AIによる損傷診断、ロボットによる危険箇所点検など、高精度かつ効率的な管理が可能となり、安全安心な社会インフラが保たれています。
- ・進化したVRや3次元映像などにより、本場・徳島の阿波おどりが放つ熱気や高揚感が世界中にリアルに伝わり、“阿波おどりの聖地・徳島”を訪れるインバウンド客が増え続けています。
- ・AIやARによる多言語に対応した自動翻訳や情報提供サービスが普及し、世界各国から来県するインバウンド客は県内のどこでも円滑なコミュニケーションが可能となり、旅行者は県民との交流を深め、徳島の旅を楽しんでいます。

【3】未知なる魅力を創造「ときめく とくしま」

未来を切り拓くひとが育ち・集い・輝くことで、ひとを惹きつける
新たな価値や魅力を創造する徳島

【地域の強みとイノベーションが結びつき新産業が創り出されている】

- ・世界最先端のイノベーション創出環境を求めて、多くのベンチャー企業や研究開発機関が集まり、次世代LEDをはじめ光関連分野、ICTや環境・エネルギー、医療・健康分野、CNF（セルロースナノファイバー）などの高機能素材分野において、多様な産業・人材集積を活かした新産業・新サービスの創出やグローバル展開が図られています。
- ・徳島が誇る2つのブルー「LED」と「藍」によって織りなされる製品や、優れた機能・デザインが人気を集めている木工家具など、徳島の産業の粋を集めた“MADE IN TOKUSHIMA”が世界中で愛されています。
- ・徳島の風土によって育まれた「安全・安心」、「高品質」を誇る徳島の農林水産物が世界で認められ、海外輸出が飛躍的に増大するとともに、6次産業化やECによる販路拡大が図られるなど、本県の農林水産業が、国内外の「食」を支えています。
- ・豊かで良質な森林資源とドローンやICTを活用した適切な森林管理、優れた木材加工技術を背景に、県産材製品の販路が国内外に広がるとともに、“川上”から“川下”まで、森林資源による持続可能な循環型経済システムが確立され、林業アカデミーの卒業生が徳島の森でいきいきと活躍しています。

【未来を創る人財が育ち・集い・新たな価値が生まれている】

- ・AIやロボットが多く職業に取り入れられる中、徳島ならではの人づくり・人財育成の取り組みによって、創造性やコミュニケーション、情報・ICTリテラシーといった「21世紀型スキル」はもとより、相手（ひと）の立場や気持ちを思いやる心、未知の事象に対しても主体的に解決していく“人（ひと）ならではの力を身につけた“未来を創り出す人財”が育っています。
- ・世界最高水準のICTインフラと革新技術がいち早く社会実装され、豊かな自然を満喫できる快適な居住環境や地域ぐるみの受入れ態勢が整った徳島は、世界をリードする多くのクリエイティブ人財を惹きつけ、徳島の若者たちと刺激し合いながら、「新たな価値」が創造・発信されており、クリエイティブ産業が本県の主要産業に成長しています。

【徳島ならではの文化・スポーツが継承・創造され魅力を増している】

- ・東京2020大会などの数々の国際スポーツ大会や、本県でのキャンプ開催を通じて積み重ねられた世界各国のトップアスリートとの交流が“レガシー”として継承され、若者は、様々な競技種目のトップレベルのパフォーマンスを間近に体感できる恵まれた環境の中で、夢や高いモチベーションを抱きながら指導を受け、徳島から多くのトップアスリートが世界に羽ばたいています。
- ・東京2020大会などを通じて世界に発信された「阿波藍」「阿波人形浄瑠璃」「阿波おどり」「ベートーヴェン・第九」をはじめとする「あわ文化」は、多くの人々の心に強く刻みこまれ、国内外との交流が拡大するとともに、多様な担い手によって、様々な文化や価値観との融合が図られ、「新たな価値」を創造しながら進化を続けています。

- ・ V Rをはじめ I C Tの進展によって、より多くの子どもたちが「あわ文化」や国内外の一流の文化芸術を見て、さらに自ら演じる機会が一層広がり、「ふるさと徳島」への誇りを胸に多くのアーティストが世界を舞台に活躍しています。
- ・ 我が国が誇る世界遺産「四国八十八箇所霊場と遍路道」での心のこもった“おもてなし”や、世界遺産「鳴門の渦潮」をはじめとした自然景観、また、歴史や風土、人々の暮らしの中で育まれてきたまちの景観、さらには雄大な河川やバラエティに富んだ海岸でのラフティング・サーフィンといった体験型スポーツ、アニメやeスポーツなどを取り入れた徳島発のイベントなど、徳島の歴史・自然・文化を活かした観光資源が地域の魅力として輝きを放ち、世界中から旅行者を惹きつけ、リピーターを増やしています。

【未来につながるインフラ整備により徳島のポテンシャルが増している】

- ・ 災害時のリダンダンシーの確保にも寄与する「四国8の字ネットワーク」や四国新幹線などの高速交通ネットワーク、世界とつながる空港・港湾への国際定期便の運航やクルーズ船の寄港を通じて、国内はもとより世界との交流が飛躍的に拡大するなど、徳島の有するポテンシャルがさらに高まっています。

【革新技術を活用した地域課題の解決や地域づくりが進んでいる】

- ・ 革新技術が地域社会に実装されることにより、ものづくりや農林水産業、医療、介護などの地域の担い手・労働力不足といった地域課題の解決が図られ、地域の暮らしに豊かさやゆとりが創出されています。
- ・ I C Tインフラと革新技術の進展によって、どこに住んでいても様々な職業を選択することが可能となり、若者は地元に住居しながら世界の第一線で活躍し、都市部から地域への移住も増えています。
- ・ 自動運転バスや、需給に応じて配車が行われるシェア型モビリティが県内各地で運行され、移動サービスのネットワークが構築されるとともに、ドローンや自動運転トラックによる買い物支援・物流サービスが提供され、移動手段や買い物に困ることのない地域社会が実現しています。
- ・ I C Tや自動運転技術が進展する中においても、人々がフェイスtoフェイスで出会い、対話の生まれる拠点づくり・ユニバーサルなまちづくりが進み、多様な移動サービスによって拠点と拠点が結ばれ、子どもから高齢者まで多くの人々の笑顔であふれています。
- ・ 県や市町村など地方自治体は、A Iやロボティクスなどが積極的に導入されるとともに、様々な情報システムが標準化・共通化された「スマート自治体」へと転換し、持続可能な形で行政サービスが提供されています。